

Threshold Influence Model for Allocating Advertising Budgets

宮内 敦史¹ 岩政 勇仁² 福永 拓郎³ 垣村 尚徳²

¹ 東京工業大学

² 東京大学

³ 国立情報学研究所

2015年8月3日



河原林巨大グラフプロジェクト
Kawarabayashi Large Graph Project

ICML 2015

The 32nd International Conference on Machine Learning

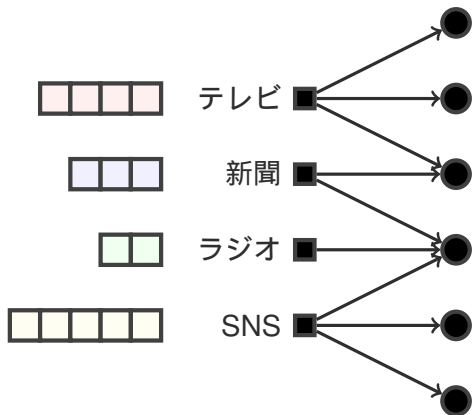
- 期間 : 7月6日から11日
- 場所 : Lille Grand Palais (リール , フランス)

今年の統計

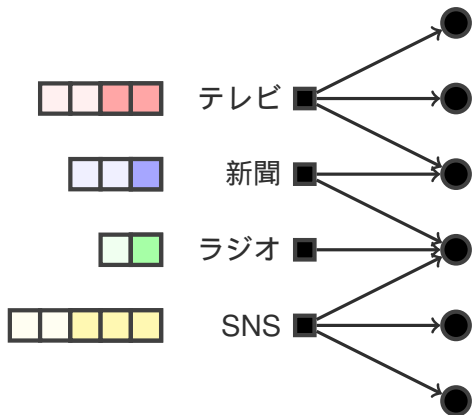
- 1,600人以上が参加
- 270本の採択論文 (採択率 : 26%)



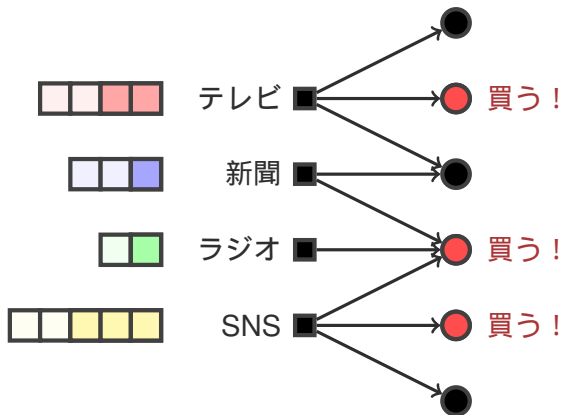
広告予算配分



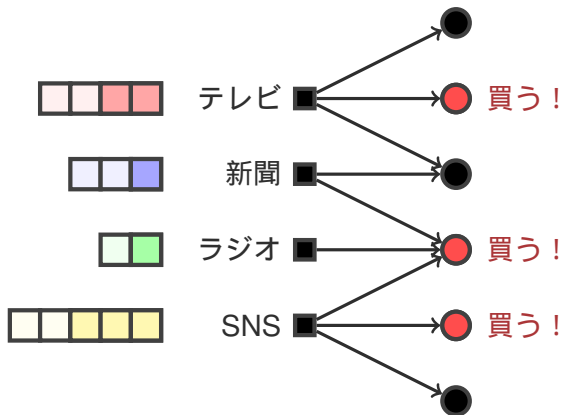
広告予算配分



広告予算配分



広告予算配分



疑問点

- 予算配分が顧客に及ぼす影響はどのようにモデル化できる？
- 最適化すべき指標は？

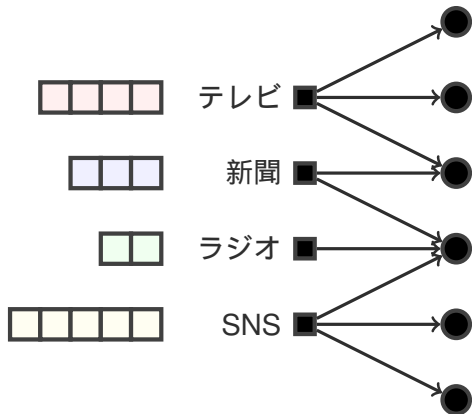
本研究の成果

閾値影響モデル

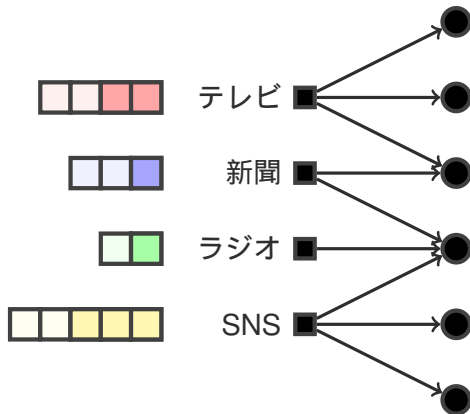
各顧客が活性化するか否かを閾値的な振る舞いとして表現

- ① 予算制約付き影響最大化
 - 2種類の貪欲解法
 - 影響関数が劣モジュラの場合
- ② コスト効率性最大化
 - 高速な精度保証付き近似解法
 - 線形計画法を用いた精度保証付き近似解法

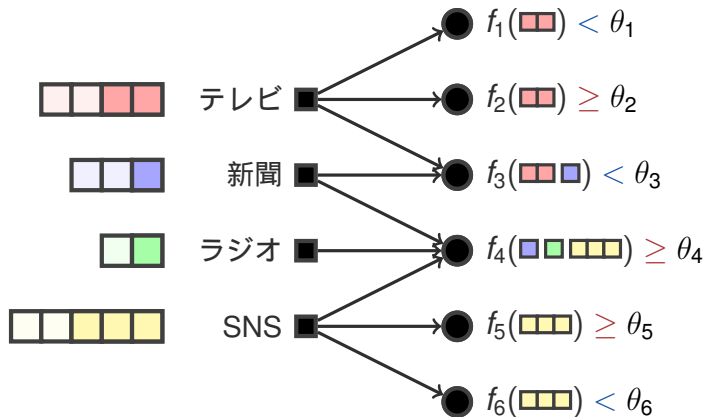
閾値影響モデル (概要)



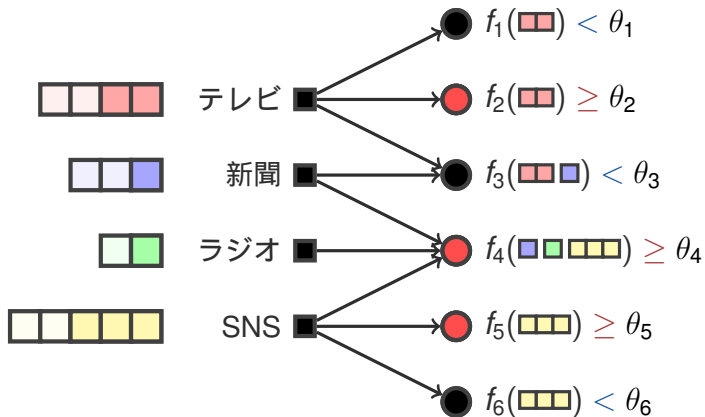
閾値影響モデル (概要)



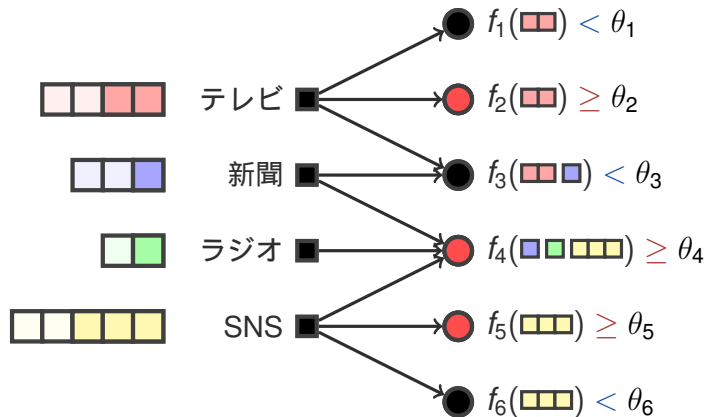
閾値影響モデル (概要)



閾値影響モデル (概要)



閾値影響モデル (概要)



予算配分は整数格子点として表現できる e.g., (2, 1, 1, 3)

閾値影響モデル (定義)

二部グラフ $G = (S, T; E)$

- 各頂点 $s \in S$:
 - 配分可能な予算の上限 $u_s \in \mathbb{Z}_+$
- 各頂点 $t \in T$:
 - 単調影響関数 $f_t : \mathbb{Z}_+^{\Gamma(t)} \rightarrow \mathbb{R}_+$ ($\Gamma(t): t \in T$ の隣接点の集合)
 - 閾値 $\theta_t \in \mathbb{R}_+$

予算配分 $\mathbf{x} \in \mathbb{Z}_+^S$ に対して, $f_t(\mathbf{x}_t) \geq \theta_t$ のとき, 頂点 $t \in T$ は活性化

- $\mathbf{x} \in \mathbb{Z}_+^S$ の影響: $f_G(\mathbf{x}) = |\{t \in T \mid f_t(\mathbf{x}_t) \geq \theta_t\}|$
- $\mathbf{x} \in \mathbb{Z}_+^S$ のコスト: $c(\mathbf{x}) = \sum_{s \in S} x_s$

単位価格 $c_s \in \mathbb{R}_+$ や重要度 $w_t \in \mathbb{R}_+$ をもつモデルも定義できる

本研究の成果

閾値影響モデル

各顧客が活性化するか否かを閾値的な振る舞いとして表現

- ① 予算制約付き影響最大化
 - 2種類の貪欲解法
 - 影響関数が劣モジュラの場合
- ② コスト効率性最大化
 - 高速な精度保証付き近似解法
 - 線形計画法を用いた精度保証付き近似解法

本研究の成果

閾値影響モデル

各顧客が活性化するか否かを閾値的な振る舞いとして表現

- ① 予算制約付き影響最大化
 - 2種類の貪欲解法
 - 影響関数が劣モジュラの場合
- ② コスト効率性最大化
 - 高速な精度保証付き近似解法
 - 線形計画法を用いた精度保証付き近似解法

予算制約付き影響最大化

予算 $B \in \mathbb{Z}_+$

Maximum General-Thresholds Coverage Problem

$$\begin{aligned} & \text{Maximize } f_G(\mathbf{x}) \\ & \text{subject to } c(\mathbf{x}) \leq B \quad (\text{予算制約}) \\ & \quad \quad \quad \mathbf{x} \leq \mathbf{u} \quad (\text{上限制約}) \\ & \quad \quad \quad \mathbf{x} \in \mathbb{Z}_+^S \quad (\text{予算配分}) \end{aligned}$$

特殊ケース

- 最大被覆問題
- 最密 k -部分グラフ問題 (Kortsarz & Peleg '93)
- Target-side influence model (Alon et al. '12)

センサ配置, 文書要約, 特徴選択, などにも応用をもつ

2種類の貪欲解法

Incremental Greedy:

最大被覆問題に対する貪欲解法を一般化 (Hochbaum '97)

- 1: 空な配分 $\mathbf{x} = (0, \dots, 0)$ をとる
- 2: 影響の増加分が最大の $s \in S$ に予算を配分
 - $O(\beta \sum_{s \in S} u_s |E| + |T|)$ 時間 (β : 関数 f_t の値の計算に要する時間)

Decremental Greedy:

最密 k -部分グラフ問題に対する“最小次数頂点除去法”を一般化 (Asahiro et al. '00)

- 1: 上限の配分 $\mathbf{x} = (u_1, \dots, u_{|S|})$ をとる
- 2: “貢献度”が最小の $s \in S$ の予算を削る
 - $O(\sum_{s \in S} u_s + |T| + \beta \sum_{t \in T} \sum_{s \in \Gamma(t)} u_s)$ 時間
 - u_s が定数であれば, $O(|S| + |T| + \beta|E|)$ 時間

影響関数 f_t が劣モジュラの場合

整数格子上の関数 $f: \mathbb{Z}_+^n \rightarrow \mathbb{R}_+$ が劣モジュラ

$$\stackrel{\text{def}}{\iff} f(\mathbf{x}) + f(\mathbf{y}) \geq f(\mathbf{x} \vee \mathbf{y}) + f(\mathbf{x} \wedge \mathbf{y}) \quad (\forall \mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{Z}_+^n)$$

($\mathbf{x} \vee \mathbf{y}$ は成分ごとの最大, $\mathbf{x} \wedge \mathbf{y}$ は成分ごとの最小)

仮定

- f_t : 値域が $[0, 1]$ の単調劣モジュラ関数
- θ_t : $[0, 1]$ 内の一様ランダムな値

$$\begin{aligned} & \text{Maximize} \quad \sum_{t \in T} f_t(\mathbf{x}_t) \quad (\text{影響の期待値}) \\ & \text{subject to} \quad c(\mathbf{x}) \leq B, \quad \mathbf{x} \leq \mathbf{u}, \quad \mathbf{x} \in \mathbb{Z}_+^S \end{aligned}$$

定数近似解法

1: 次の条件を満たすインスタンスに帰着

- 予算の上限 $u_s = 1 (\forall s \in S)$
- 目的関数が単調劣モジュラ
- 擬多項式サイズ

2: 集合関数に対する $(e/(e-1))$ -近似解法を適用 (Sviridenko '04)

→ 擬多項式時間で $(e/(e-1))$ -近似解が得られる

- Soma et al. (ICML 2014) の別証明
- 整数格子上の単調劣モジュラ関数を扱う他の問題にも適用可能

本研究の成果

閾値影響モデル

各顧客が活性化するか否かを閾値的な振る舞いとして表現

- ① 予算制約付き影響最大化
 - 2種類の貪欲解法
 - 影響関数が劣モジュラの場合
- ② コスト効率性最大化
 - 高速な精度保証付き近似解法
 - 線形計画法を用いた精度保証付き近似解法

本研究の成果

閾値影響モデル

各顧客が活性化するか否かを閾値的な振る舞いとして表現

- ① 予算制約付き影響最大化
 - 2種類の貪欲解法
 - 影響関数が劣モジュラの場合
- ② コスト効率性最大化
 - 高速な精度保証付き近似解法
 - 線形計画法を用いた精度保証付き近似解法

コスト効率性最大化

予算配分 $\mathbf{x} \in \mathbb{Z}_+^S$ のコスト効率性 :

$$d(\mathbf{x}) = \frac{f_G(\mathbf{x})}{c(\mathbf{x})}$$

$f_G(\mathbf{x})$ \mathbf{x} の影響
 $c(\mathbf{x})$ \mathbf{x} のコスト

Cost-Effective General-Thresholds Coverage Problem

Maximize $d(\mathbf{x})$

subject to $\mathbf{x} \leq \mathbf{u}$ (上限制約)

$\mathbf{x} \in \mathbb{Z}_+^S$ (予算配分)

- 広告予算配分の予算額の目安を知る上で有用
- NP 困難

精度保証付き近似解法

Fast Approximation:

本質的には Decremental Greedy と同じ

- 1: 予算 $B = 0$ として Decremental を実行し, 予算配分の列を得る
- 2: その列のなかで, コスト効率性が最大のものを出力
 - $\max_{t \in T} \sum_{s \in \Gamma(t)} u_s$ -近似
 - Decremental Greedy と同じ実行時間

LP-based Approximation:

ある特殊ケース (NP 困難) に対してのみ適用可能

- 1: 線形計画問題の最適解から予算配分の列を得る
- 2: その列のなかで, コスト効率性が最大のものを出力
 - $\max_{t \in T} (\sum_{s \in \Gamma(t)} u_s - \theta_t + 1)$ -近似
 - 擬多項式時間

数値実験 (CPU: Intel Core i7 2.4 GHz, Memory: 16 GB RAM)

提案解法 Incremental と Decremental の性能評価

グラフ

- 実グラフ (Yahoo! Bidding Data)
 - “検索キーワード” と “アカウント” のグラフ
 - $(|S|, |T|, |E|) \approx (1k, 10k, 53k)$
- 人工グラフ
 - S に属す頂点の次数分布がべき則
 - $(|S|, |T|, |E|) \approx (20k, 200k, 2000k)$

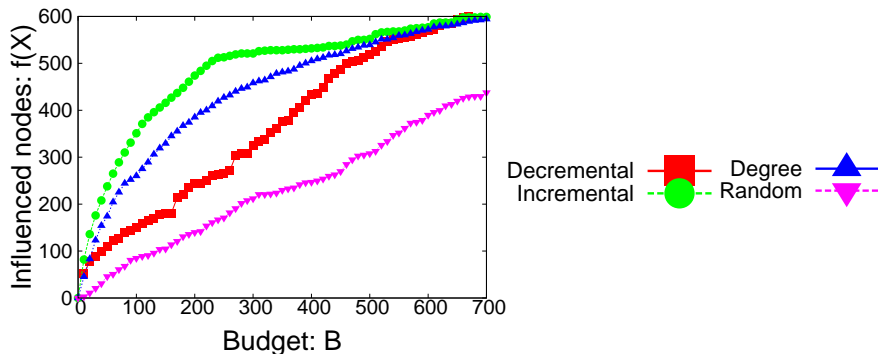
比較手法

- Degree (次数が大きい頂点 $s \in S$ から予算を配分)
- Random (ランダムに頂点 $s \in S$ を選択して予算を配分)

実グラフ $(|S|, |T|, |E|) \approx (1k, 10k, 53k)$

設定 (1)

- f_t : 劣モジュラ
- θ_t : 区間 $[0, 1]$ から一様ランダム

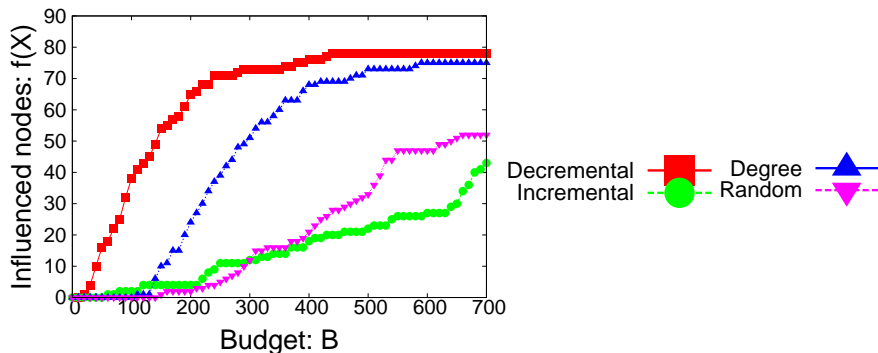


- どの予算額でも Incremental が最大の影響

実グラフ $(|S|, |T|, |E|) \approx (1k, 10k, 53k)$

設定 (2)

- f_t : 劣モジュラでない
- θ_t : 区間 $[0.5, 1]$ から一様ランダム

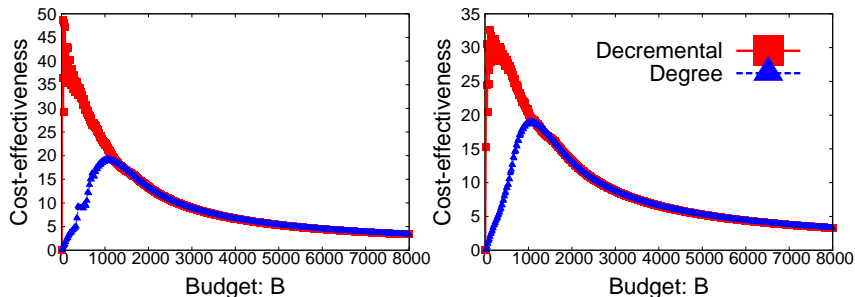


- どの予算額でも Decremental が最大の影響
- Decremental の実行時間は 1 秒程度

人工グラフ ($|S|, |T|, |E| \approx (20k, 200k, 2000k)$)

設定

- f_t : 左図では劣モジュラ, 右図では劣モジュラでない
- $\theta_t = 0.8 (\forall t \in T)$



- Decremental がより高いコスト効率性
- Decremental の実行時間は数分程度

本研究の成果（再掲）

閾値影響モデル

各顧客が活性化するか否かを閾値的な振る舞いとして表現

- ① 予算制約付き影響最大化
 - 2種類の貪欲解法
 - 影響関数が劣モジュラの場合
- ② コスト効率性最大化
 - 高速な精度保証付き近似解法
 - 線形計画法を用いた精度保証付き近似解法